

第三者評価結果入力シート（自立援助ホーム）第5期受審期

種別	自立援助ホーム
----	---------

①第三者評価機関名

(有)アウルメディカルサービス

②評価調査者研修番号

SK2024151
SK2024150 第06-継07
第06-養08

③施設名等

名称：	そよ風
施設長氏名：	大賀 千晶
定員：	12名
所在地(都道府県)：	岡山県
URL：	https://mirainokaze-npo.com
【施設の概要】	
開設年月日	2018/12/21
経営法人・設置主体(法人名等)：	特定非営利活動法人 未来の風
職員数 常勤職員：	7名
職員数 非常勤職員：	4名
有資格職員の名称(ア)	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	2名
施設設備の概要(ア)居室数：	12室
施設設備の概要(イ)設備等：	光電式スポット型感知器、誘導灯及び誘導標識、定温式スポット型感知器
施設設備の概要(ウ)：	消火器、自動火災報知設備

④理念・基本方針

個々の意思を尊重し、子どもの最善の利益を考え、寄り添います。

⑤施設の特徴的な取組

ホームは、義務教育終了児童等が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、共同で生活する住居において、日常生活上の援助及び生活指導並びに就業の支援を行うものとする。また、退去した場合においても、必要に応じて継続的に相談その他の援助を行うものとする。
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2025/6/11
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2025/8/29
前回の受審時期(評価結果確定年度)	—

⑦総評

玄関の扉を開けると黒猫が出迎えてくれ、和やかな雰囲気の中で評価が始まった。施設内では、こども達と信頼関係を作ることを第一目標として取り組んでいる。安心したこども達の居場所の提供、否定的なことは言わずに肯定し、あるがままに受け入れるようにしている。日頃の会話を大切にしており、気になった場合には言葉掛けをして、迅速に対応するようにしている。悩んだ時には、相談できる環境を作り、話を聞いてあげられるように傾聴の姿勢で接している。施設の魅力はという問いには、職員・こども達が自慢であると自信を持って答えており、常日頃からの信頼関係が構築されているという裏付けにもなった。
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回初めての第三者評価の受審でしたので、職員一同大変緊張をしていましたが、職員の話や思いを丁寧に聴いてくださることで、その緊張もいつしかほぐれていきました。また受診の際は色々な提案や方法を教えていただくことでホームとしての改善に繋がりましたので、第三者評価をしていただいた皆様には感謝申し上げます。これからも定期的に受審をしてサービス向上に繋げていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。
--

第三者評価結果（自立援助ホーム）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
【コメント】 理念は、ホームページ、定款、契約書、新人研修の用紙に記載されている。創設時の理事長の思いが詰まった理念となっており、「個々の意思を尊重し、子どもの最善の利益を考え、寄り添います。」を実践している。ホーム長は、理念をHeartで伝えていてと語ってくれた。こどもと同じ目線に立って、一緒に考えるようにしている。また、疑問に思ったことがあれば、他の職員に意見を求めている。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
【コメント】 毎月の収支の報告と岡山県地域福祉支援計画があり、経営を取り巻く環境が整っている。また、入所の際は事前に児童相談所と入念な打ち合わせをしており、入居が決定したときは、入居する子どもの詳細なデータを取り寄せている。サービスの向上を目指して、日々動向を確認している。法人全体でも数ヶ所の施設を運営しているので動向を把握しやすい。	
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
【コメント】 毎年4月に前年度分の収支報告を行っていて、経費節減に向けて取り組みを実施している。特に電気・水道代の光熱費には十分に注意している。また、課題が出てきた際には、職員間で話し合いをする場を設けており、解決できるようにしている。	

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a
【コメント】 毎年4月に計画評価・見直しを行っている。結果は職員間で情報共有をしている。また法人全体では、5年スパンで中長期計画を策定している。基本方針にもある【人間関係作り】に配慮ができるような内容となっている。	
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
【コメント】 中・長期計画に基づいた、単年度計画が策定されている。実績に向けた評価を毎月実施している。また、毎月確認することで内容を忘れないようにしている。	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
【コメント】 毎年4月の全体会議にて、計画を周知している。毎月の全体会議で振り返りの場を設けている。何かあった場合には、このままでいいのかを職員間で話し合い、迅速に対応・見直しをしている。事業計画は、職員間で意思疎通を図っている。	
② 7 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	b
【コメント】 事業計画の詳細までは利用者へは周知はしていないが、主な内容は周知し、理解を得ている。また、利用者が有意義に過ごせるように配慮して、利用者に必要な内容は必ず伝えるようにしている。	

4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
【コメント】 単年度計画にて、教育や研修を計画している。必要な研修に参加して頂くことで、職員の技術の向上にも努めている。毎年2月には、自己評価を実施していて、サービスの質を向上できるように、見直す機会を設けている。	
② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
【コメント】 毎年評価を実施して、結果を分析し課題に向けて取り組んでいる。しかし、課題の文書化への細分化には現在至っていない。また、ボランティアの受け入れに対しても、現在窓口を広げている最中である。	

Ⅱ 施設の運営管理

1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
① 10 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
【コメント】 役割と責任については、「職位ごとの期待役割」にて明示している。また、4月の会議にて、決意表明もしている。今年で3年目を迎えたホーム長は、「常にこどもと同じ目線に立って接している」と語ってくれ、自らの役割と責任が明確化されていることが窺えた。	

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
【コメント】 法令遵守研修を定期的に行い、理解を図っている。法人のルールや制度に則って職務を遂行している。法人の法令遵守の手引き(コンプライアンス・マニュアル)を活用して、周知している。また5月には、法令順守の研修を実施して、職員間で意識を高めることができた。		
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
【コメント】 年間計画に基づいて研修を開催している。必要に応じて、職員に外部の研修を促している。直近では、包括性教育の研修に参加できた。ホーム長は、職員の意見に耳を傾けて、常に最善策を模索している。定期的に個人面談を実施して、職員の意見を聴取するようにしている。また、何かあればホーム長と副理事長は連携を図って、解決するよう取り組んでいる。		
②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
【コメント】 ホーム長は経営改善に前向きであり、指導力を発揮できる体制を築いており、今後充実させていく段階である。4月の会議では、人員配置や環境整備についても意見が挙がった。また、職員の有給休暇の取得や勤務時間に配慮して、より良い環境作りに努めている。		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
【コメント】 法人全体で、福祉人材確保・育成・定着・基本方針を定めている。3つの目標を掲げて、確保できるように努めている。現在、人材は確保できているので、採用活動は実施していない。面接時には、職員のやる気を大切にしている、確認してから採用に至っている。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
【コメント】 職位ごとの期待役割を作成して、職員像を明確にしている。年1回、人事考課を行って、職員の意識を高められるようにしている。副理事長は、職員は期待以上の役割を担っていると自信を持って答えてくれた。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
【コメント】 有給休暇が消化しやすいように、職員間で連携を図っている。有給を活用することで、職員の心身の確保に努めている。夜間に緊急対応があった際には、法人と相談した上で勤務を調整している。「この職場は楽しくて、やりがいがあります」と補助員は熱い気持ちを語ってくれた。		
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
【コメント】 人事考課に基づいて、目標と進捗状況を確認している。目標に向けて進めるように日々取り組んでいる。必要に応じて、職員には外部研修に参加している。年1回、疲労蓄積度自己診断チェックリストを実施して、職員の状態を把握できるようにしている。		
②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
【コメント】 「期待する職員像」という書類を活用して、職員が目指すべき内容を明確に記している。年間計画に基づいて、必要な研修に参加して頂いている。今後、専門技術や専門資格を明示する書類を作成するように企画している。		
③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
【コメント】 新人研修を実施しており、外部研修への参加も推奨して、専門性高められるようにしている。年間計画に基づいて、必要な研修に参加を促している。新人研修では、理念の説明、地域との関り、就業規則の閲覧場所を明確にしている。職員間で話し合ったことを大切にしている。		
(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
【コメント】 開設当初は、近隣の学校に挨拶周りを実施しており、周知を図っていた。現在は、ホーム実習実施要項には明文化されているが、受け入れの実績はない。		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
【コメント】 NPOポータルサイトやホームページにて情報公開をしている。地域に向けたお便り(A4・1枚)を配布して、内部の様子を伝えている。倉敷の福祉プラザへは、パンフレットを配布して周知を図っている。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
【コメント】 業務分掌規程を整備しており、監事による確認を毎年受診している。また、外部税理士とも契約しているため、財務経理についての確認もできている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 利用者地域との交流を上げるための取組を行っている。	a
【コメント】 地域との連携については文書化している。地域の清掃活動に参加している。「地域との関わりについて」の明文化している。地域清掃がある場合には、子ども達は積極的に参加している。	
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
【コメント】 ボランティアの基本姿勢は整備しており、明文化もされているが、実際に受け入れ実績はまだない。近隣の子ども食堂へ足を運び、地域との関わりは持っている。	
(2) 関係機関との連携が確保されている。	
① 25 事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
【コメント】 児童相談所や地域の自立援助ホームと定期的に会議をして連携を図り、地域ニーズや福祉ニーズを把握している。他の自立援助ホームと連携を取り、月1回の定例会議に参加して、意見交換ができています。また、警察や消防とも連携が図れている。	
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	
① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
【コメント】 児童相談所や地域の自立援助ホームと定期的に会議をして連携を図り、地域ニーズや福祉ニーズを把握している。他の自立援助ホームと連携を取り、月1回の定例会議に参加して、意見交換ができています。また、警察や消防とも連携が図れている。(上記に同じ)	
② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
【コメント】 地域の清掃活動に参加して、地域の福祉ニーズの把握には努めているが、活動までには至っていない。近隣の住民や店舗には、施設の情報を伝えて、連携を図っている。また、地域住民への言葉掛けを行って、連携を図っている。	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果
① 28 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
【コメント】 定期面談、倫理綱領、運営規定にて明記しており、子どもを尊重したサービスや研修ができています。年1回、権利擁護の研修を実施して、生命の尊厳、人権の尊重、個人の尊厳、自立支援についても確認できています。	
② 29 利用者のプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a
【コメント】 個人情報保護規程にて、秘密保持を守っている。年1回、プライバシー保護研修を実施して、学びを深めている。各部屋には鍵がついていて、プライバシーにも配慮されている。また、プライバシー保護マニュアルも整備されている。	
(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	
① 30 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
【コメント】 地域福祉サービスのパンフレットを準備して、わかりやすく工夫している。児童相談所と連携を取っていることもあり、入居にも繋がっている。入所規則は整備されており、図や絵を入れていて、見やすいように工夫がなされていた。また、虐待の通告の書類も付けている。	
② 31 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a
【コメント】 福祉サービスの開始・変更にあたっては、子どもがわかりやすいように事業所の方からも親切・丁寧に説明をしている。	
③ 32 福祉サービスの内容や事業所の変更、地域・家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	b
【コメント】 福祉サービスの変更の際には、配慮できるように、引継ぎ文書や窓口を設置している。他の事業所への移行引継ぎ文書も作成されている。アフターケアについての書面も配布している。	
(3) 利用者の満足の向上に努めている。	第三者 評価結果
① 33 利用者の満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
【コメント】 毎月の面談で満足度の調査を実施して、満足調査表を活用している。内容も本音で書かれていた。フィードバックする際には、子ども達にも集まって頂いている。何かあった際には、不定期ではあるが、利用者会的な会議を開催している。	
(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
【コメント】 毎月の面談で、苦情があれば話しやすい仕組みを構築している。何かあれば、「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」にて照らし合わせている。必ず翌日までに具体的に対応するように心掛けており、苦情処理報告書にすぐに挙げるようにしている。	

②	35 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a
【コメント】 入所規則に相談できること内容を記載しており、配布できている。玄関に意見箱は設置しているが、口頭で職員に伝えることも大半を占めている。職員との信頼関係が構築されているからこそ、口頭でも伝えることができています。		
③	36 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
【コメント】 苦情対応マニュアルを整備しており、すぐに見直しができるように体制を整えている。子ども達が意見を述べやすいように、傾聴する姿勢を心掛けている。		
(5)	安心・安全な福祉サービスの実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
①	37 安心・安全な福祉サービスの実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
【コメント】 事故発生防止のための基本方針を整備しており、研修や見直しを定期的実施している。リスクマネジメントとして、事故発生防止のための基本指針や利用者緊急時対応連絡を整備している。また年1回、リスクマネジメント研修を実施して、意識を高めている。		
②	38 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
【コメント】 感染症予防対策マニュアルを整備し、管理体制及び研修を定期的実施している。またコロナ時においては、徹底した消毒やマスクを着用して過ごしており、感染防止に努めていた。		
③	39 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
【コメント】 災害規程を整備しており、訓練や備蓄リスト、実施及び整備を行っている。避難場所は近隣の小学校が指定されている。備蓄は、缶物、ご飯類、水を1週間確保していて、防災リュックも保管している。何かあれば、職員間ではSNSを活用して連絡が取れる体制が構築されている。		

2 福祉サービスの質の確保

(1)	提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが実施されている。	a
【コメント】 年1回、サービスの標準実施研修を行っている。サービスの標準実施についての文章や運営指針の中には「子どもとの信頼関係を築き、困った時に相談できる」ように明記されている。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
【コメント】 サービスの標準実施における見直しの仕組みが確立されており、年1回、確認の場を設けている。前回の結果では、見直しする項目が特になかったため、今年度はそのまま継続している。お風呂の時間帯を調整する際に、子ども同士で話し合うことができ、お互いが譲り合うようになった。		
(2)	適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。	
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
【コメント】 アセスメントに基づいて策定されている。自立支援計画の手順や自立支援計画・アセスメント用紙を活用している。記入する際には、子どもと話し合っ作成するようにしている。話し合った結果を踏まえた上で、自立支援計画書を作成している。6ヶ月ごとに作成をしているが、何かあれば、その都度変更するようにしている。		
②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
【コメント】 定期的に自立支援計画の評価・見直しを実施されている。(コメント内容は上記に同じ)		
(3)	福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	
①	44 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
【コメント】 サービスの実施状況の記録や定期的な会議にて情報の共有ができている。アセスメントにて、生活状況を確認しており、より良く過ごせるように配慮している。また、パソコンに記録している情報は、職員のみが閲覧できるようになっている。		
②	45 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a
【コメント】 個人情報保護規程により責任者も設置しており、また研修も開催している。個人情報管理規定に則って、取り扱いには十分気をつけるようにしている。重要書類は、施錠のついた棚に保管するようにしている。利用契約における個人情報使用同意書にて、行政との連携にも同意を得ている。		

内容評価基準 (24項目)

A-1 利用者の権利擁護、最善の利益に向けた支援

(1)	利用者の尊重	第三者 評価結果
①	A1 入居に際して、事業所での生活や約束ごとを説明し、利用者がよく理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう配慮している。	a
【コメント】 入居時に、契約書と入居規則によって十分に説明を行っている。本人が自己決定できるように職員が話を聞くように配慮している。また、他責にしないようにも気をつけている。毎月の振り返り面談にて、約束事の確認をしている。		

②	A2 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
【コメント】 年1回、子どもの権利擁護に基づいた研修を実施している。社会的擁護と子どもの権利擁護は書面に確認している。何かあった場合には、話し合いの場を設けて迅速に解決できるようにしている。		
③	A3 職員との適切な関係を通し利用者の自尊心が育まれ、自他の権利を尊重できるよう支援している。	a
【コメント】 自尊心を育てるポイントを書面化している。また、整備もされており、支援を行っている。「よく頑張ったよ」「次は大丈夫だよ」と肯定的な言葉掛けをしており、否定的な言い方はしないように徹底している。当たり前なことでも褒めるようにして、自尊心が高められるようにしている。		
④	A4 出生や生い立ち、家族の状況等をふまえ、利用者自身が、どのように生きるかを考えるための支援をしている。	a
【コメント】 実態調査表にて出生や家族状況について把握しており、職員間でも情報共有を図っている。家庭の状況は児童相談所を通じて把握するようにしている。何かあれば児童相談所と連携が取れる体制を構築している。		
(2) 被措置児童等虐待の防止等		
①	A5 利用者に対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
【コメント】 児童虐待防止マニュアルは整備されているが、子どもが学習できる機会までの設定には至っていない。入所時に虐待通告の説明を書面に丁寧説明している。児童虐待防止マニュアルの確認も行って、手順も明記している。		
(3) 主体性、自立性を尊重した日常生活		
①	A6 利用者自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう支援している。	a
【コメント】 自尊心を育てるポイントを活用して、自尊心が育てられるようにしている。職員が子どもと話をし、子どもの意思を確認するようにしている。学校への登校や運転免許の取得を支援している。ボクシングやウェイトトレーニングに通っていた方もいる。		
(4) 支援の継続性とアフターケア		
①	A7 退居後の生活の計画が作成され、利用者と退居後の生活を話し合ったうえで退居を決定している。	a
【コメント】 退去後の生活計画を作成しており、退去後もフォローをしている。退去後生活計画書を作成して、退去後も支援できるように工夫している。毎月SNSを活用したり、自宅訪問をしたりして連携を図っている。		
②	A8 利用者が安定した社会生活を送ることができるよう退居後も必要に応じて継続的な支援を行っている。	a
【コメント】 アフターケアを実施するにあたり、アフターケアについての書面を活用して説明をしている。また、アフターケアの記録を取って、職員間で情報共有をしている。		

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本		第三者 評価結果
①	A9 利用者職員との信頼関係を構築するために、受容的・支持的な関わりを行っている。	a
【コメント】 定期面談を実施しており、個々の気持ちを汲み取りやすいようにしている。日常から子どもの顔色を見ているので、些細な変化にも気づきやすい。何かある場合には、時間や場所を変えて、話しやすい環境作りに努めている。		
②	A10 利用者の発達段階や課題に考慮した援助を行っている。	a
【コメント】 面談の中において、理由だけでなく、本音を聞くことを意識している。発達障害の特性と対応を活用して確認するようにしている。また、一人ひとりの特性や長所・短所を把握して、その方に合わせた対応をできるように心掛けている。		
③	A11 利用者の力を信じて見守るという姿勢を大切に、利用者が自ら判断し行動することを保障している。	a
【コメント】 常に見守る姿勢を心掛けており、主体的に問題を解決するように支援を行っている。毎月、児童相談所に報告する書類にも明記されている。ホーム長と副ホーム長は、常に子どもの目線に立ち寄り添い、自己選択ができるように支援している。また、声掛けではなく、言葉掛けに徹している。		
④	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう支援している。	a
【コメント】 面接時の電話対応や服装等の社会常識を身に付けられるように支援したり、地域の清掃活動に参加したりしている。入所規則の書面にて、食事・洗濯・整理整頓が明文化されている。また、インターネットについては、情報リテラシーを高められるように職員も日々勉強している。		
(2) 食生活		第三者 評価結果
①	A13 バランスのとれた食事に配慮し、食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう配慮している。	a
【コメント】 入所時の聞き取りにて、アレルギーや嗜好について確認しており、普段からもコミュニケーションを図っている。朝・昼食は自分たちで料理を作っていて、夜は自分で作る場合もある。		

(3) 衣生活	第三者 評価結果
① A14 衣服は清潔で、TPOに応じたふさわしい服装となるよう助言している。	a
【コメント】 面接時の服装等で支援している。また、入所規則にも明記されている。	
(4) 住生活	第三者 評価結果
① A15 居室等事業所全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	a
【コメント】 常日頃から掃除できるように支援していて、入所規則にも明記されている。快適に過ごせるように、リビングのテレビの大きさを変更した。ポジティブ表を作成して、こどものやる気を促している。その結果、お小遣いの自己管理、ゴミ捨て、食器洗いを自主的にできるようになった。	
(5) 健康管理	第三者 評価結果
① A16 利用者一人ひとりが心身の健康を自己管理できるよう支援するとともに、必要がある場合は医療機関等と連携して適切に対応している。	a
【コメント】 生活状況を把握しており、職員間でも情報共有ができています。何かあれば病院を受診して、児童相談所に適宜報告をしている。	
(6) 性に関する教育	第三者 評価結果
① A17 他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
【コメント】 毎年、性教育を実施していて、職員が外部研修にも参加している。年1回、個別面談で性に関する話をして、理解を得られるようにしている。	
(7) 行動上の問題への対応	第三者 評価結果
② A18 利用者の暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、組織全体で適切に対応している。	a
【コメント】 子ども同士で言い争いになった場合には、職員が間に入って問題を解決している。場合によっては、児童相談所とも連携を図っている。何かあった際には、翌日に面談を実施して、話を聞く場を設けていて、ホームのルールの再確認をするようにしている。	
(8) 心理的ケア	第三者 評価結果
① A19 心理的ケアが必要な利用者に対して心理的な支援を行っている。	b
【コメント】 心理的ケアはできていますが、研修の実施までには至っていない。心理ケアについては、書面にて確認ができていて、PTSDの症状の確認もしている。年1回、心理的ケアの研修にも参加して、意識を高めている。	
(9) 社会生活支援（進路支援、社会経験等）	第三者 評価結果
① A20 「最善の利益」になった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
【コメント】 子どもの最善の利益に寄り添って、進路も自己決定できるように話し合いをしている。自己決定がしやすいように、情報を提供するようにしている。	
② A21 進学を希望する利用者に学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	a
【コメント】 学校の三者面談に出席して、学校との連携を図り、高校退学後の情報提供もできている。何かあれば、施設側で情報を提供している。キャンピングアテンダント養成の専門学校に行きたい方がいて、今後TOEICの受験を考えている。	
③ A22 自立に向けて就労支援に取り組んでいる。	a
【コメント】 履歴書の書き方や面接の練習を行っている。履歴書の書き方では、丁寧な文字で書くように指導している。仕事の流れや社会の大変さ、必要な資格があることを伝えている。また、継続できるように支援している。	
④ A23 金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助している。	a
【コメント】 金銭を自己管理できるように援助し、日々節約についても勧めている。ポジティブ表を活用したことにより、金銭管理ができるようになった事例もある。アルバイトを頑張って100万円貯めてから退所された方からは、「職員さんのお陰でお金が貯まりました。」と言って頂けたこともある。お金の分類は、貯金・積立・お小遣いと3つの方法に振り分けている。	
(10) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① A24 本人の意思を尊重しながら利用者と家族との関係調整に取り組んでいる。	a
【コメント】 家族との連絡調整や児童相談所とも連携を図っている。家庭裁判所の経過観察も行っている。月1回、面会の機会を持っており、距離感を保つての面会が実施されている。	